

近畿選出の衆院議員らが、新型コロナウイルス感染症から国民を守れと国会内外で活躍。各地を奔走しています。

清水ただし議員

「こういう情報が必要」 大阪でネット番組

清水ただし議員は、この間、国会で中小企業に対する補償や納税猶予を引き続き求めるとともに、新型コロナを理由に長崎のハウステンボス派遣社員の契約を打ち切った問題を取り上げ、こうした事態を防ぐための給付金を政府の緊急対策に盛り込むことや、外国人観光客の激減で仕事が減っている通訳案内士への支援策を求める質問を重ねてきました。



11日には大阪でたつみコータロー前参院議員、わたなべ結党府国政対策委員長と、ネット生放送に出演しました。放送では緊急事態宣言直後ということもあり、「ロックダウンとは違うの？」「医療崩壊が心配」「家族が陽性になったらどうすればいい？」「生活が苦しい。どうすれば？」「自宅待機や解雇を言われたら…」「補償すれば休業もしやすいが、財源はあるの？」など様々な質問に答えました。視聴者からは「この先どうなるのかわかり

ません。共産党さん頑張って」「なぜテレビでこういう積極的な情報を拡散しないのか」などの感想が寄せられました。

宮本たけし前議員 “文化の灯を消してはならない。休業と補償は一体でこそ”



宮本たけし前議員は大阪5区内で、新型コロナ対策の情報を提供する宣伝活動や電話で地域の声の聞き取りをおこなったほか、9日には大阪交響楽団で影響と要望を聞きました。

対応した赤穂正秀常務理事・事務局長によると依頼公演は3月20公演すべてが中止・延期となり6千数百万円の減収です。4月もすべて中止・延期、3～5月は収入ゼロに。約70人のスタッフには給料を払っていますが、外部からの演奏者の収入がなくなる恐れも。「いったんつぶれたら、もう一度立ち上げるのはなかなか難しい。踏ん張りどころ」と支援を切望しました。

宮本氏は「在阪の4楽団からお話を伺ったが、どの楽団も本物の音楽を市民に聴いてもらおうというすごい歴史がある。文化の灯を消してはならない」と力説。「感染防止のためにも、自粛と補償は一体でなければならない。“心配しないで休んでください。その分の損失は補填（ほてん）するから”という政府の強力なメッセージが必要だ」と語りました。

27日には東淀川区内で長岡ゆりこ市議とともに電話相談会に取り組みます。



こくた恵二議員 中東派兵 感染検査体制なし

こくた恵二議員は3日の衆院外務委員会で、中東派遣の自衛艦に必要な検査体制が整備されていない問題を追及。新型コロナ対策でも野党共闘の前進へ、国会内外で奮闘。

こむら潤比例候補 感染症病床確保へ補助を

こむら潤比例予定候補は庄本悦子兵庫県議とともに、尼崎市内の商店街や民間病院で影響を調査。病



院では「感染症病床は公立でこそ。民間での確保へ補助を」の声。4日は兵庫県の対策本部会議で運動団体幹部党員から聞き取りをおこないました。

20 近畿ブロック事務所ニュース

TEL06(6975)9111 Fax06(6975)9115

【府県・地区・地方議員御中】